

2010年7月6日

／ 街角や臍のピアスに晩夏光 ／

説明するほどのこともないでしょう。

町内の句会で披露すると、「まあ！」というだけで、老婦人たちは、あとは沈黙していました。「楽しませてもらったわ」と帰りがけにいったのは、この句会の先生でした。

湘子の高弟だった老婦人です。

／ 若さとは鼻にピアスがアイス食ふ ／

／ かき氷腕に蠍のタトウあり ／

／臍にピアス…／と同じ時に出来た句で、東京のある街の風景というか、いや、風俗でしょうね。

最初の句といっしょに、投句したもので、テーマをもたせてまとめたわけです。でも、高齢の老婦人たちには、ちっともウケませんでした。詠むべき世界ではないとは思わぬまでも、詠みたい世界ではない、ということだったんでしょうかね。

／ スパッツの太もも滾る御輿ギャル ／

…私はこういう傾向の句がすきなんです。

といって、そういうのを絶えず詠んでいるわけじゃありませんし、詠めませんから、この協会に加えていただいたのです。

／ 河童忌やすがるてこなが浜走る ／

…すがるてこなとは、万葉集に出てきますか、蜂のように胴のくびれた女の子という形容で、そんな娘が走って行く…そこが滑稽のミソなんですけどね。

／ ステテコや男一匹喜寿の夏 ／

…これのどこが滑稽なんだ…

といわれると困っちゃうんですが、とにかく、日常の暮らしの状況・情景から笑って
楽しめる俳句を創りたい、と思っているのです。

／ 西日中フェリーつぎつぎ車吐く ／

…津軽海峡を渡ってきたフェリーから、次々とトラックや乗用車が下船してくる情景
です。乗船を待ちながら見ていると、ふと、吐くということばが閃き、楽しい情景に
一転しました。